

カンブルランが語る〈トリスタンとイゾルデ〉① 3人目の主演はオーケストラ



9月の《定期演奏会》(6日)と《サントリーホール名曲シリーズ》(13日)では、いよいよ今シーズンの目玉であるワーグナーの楽劇〈トリスタンとイゾルデ〉(全3幕)を、演奏会形式で披露します。これに先立ち、タクトを取る常任指揮者シルヴァン・カンブルランが、日本ワーグナー協会で行った作品に関するレクチャーを行いました。2時間以上にわたって、熱心な研究者やワーグナー愛好家ら約100人を前に繰り広げた熱弁から、マエストロの作品観や公演のポイントを、上下2回にわたって紹介します。

(4月11日・東京芸術劇場、司会は山崎太郎・東京工業大教授)

19世紀音楽にもたらした 真の革命

——マエストロはワーグナー指揮者としても、長いキャリアをお持ちですね。

「ワーグナーと初めて向き合ったのは、トロンボーン奏者としてでした。リヨン歌劇場で奏者をしていて、〈ニーベルングの指環〉や〈トリスタン

とイゾルデ〉を演奏しました。そのあと指揮者になり、ブリュッセルのモネ歌劇場で音楽監督(1981~91)を務めた際に、初めて〈トリスタンとイゾルデ〉を指揮しました。イゾルデ役は名ソプラノとして知られるギネス・ジョーンズでした。ワーグナーを振る機会は多く、例えば〈ニーベルングの指環〉はすでに16回、全4作上演を行いま

した。もうワーグナーに関しては十分指揮をしたと言える段階だと思います。ちなみに、私はオペラで110曲のレパートリーがあります」

——ワーグナーの作品で〈トリスタンとイゾルデ〉が占める位置をどうお考えですか。

「ワーグナーも初期には、イタリア・オペラやマイヤベーアら他の作曲家からの影響が見られます。それらが徐々に減って、この作品ではまったく違う音楽に成長し、19世紀の音楽に真の革命をもたらしました。台本を作曲者が自ら書いた点も重要で、音楽とテキストの間に特別な関係性があります。このため、指揮者に必ず音楽と同じぐらい台本と向き合うことを要求します。独特の様式が、音楽にもテキストにもあるのです」

——ワーグナーの他の作品と比べると、いかがですか。

「プロット(物語の展開)としては、大きなものが語られるわけではありません。〈ニーベルングの指環〉ほど複雑なストーリーではない。だから演奏会形式では取り上げやすい。逆に〈さまよえるオランダ人〉や〈ワルキューレ〉は話がややこしいので、演奏会形式には相応しくないと思います」

歌手と同等以上に 重要な管弦楽

——オーケストラにとっても挑戦しやすいのある作品ですね。

「大変シンフォニックなオペラです。トリスタンとイゾルデに次ぐ3人目の主演はオーケストラで、プロットを管弦楽が語る部分もある。歌手と同等以上にオーケストラが大事とも言えます。オーケストラにはチャレンジングかつ、演奏する喜びをもたらす作品です。聴衆にとっては、オーケストラの演奏を見ることが、一つのお芝居ともなる作品なのです」

——出演するキャストも楽しみです。

「良い演奏を提供するため、私が音楽総監督を務めているドイツのシュトゥットガルト歌劇場から、上演を経験したばかりのキャストを、多く連れて来ることにしました。リハーサル時間を短縮でき、調整が利くという現実的



トリスタン役のエリン・ケイヴス



イゾルデ役のクリスティーナ・イーヴェン ©Christine Schneider



シュトゥットガルト歌劇場の外観 ©読響

な理由もあります」

「主役の2人は、初めての大役です。トリスタン役のテノール、エリン・ケイヴスはとても若々しく、今この役では世界でも屈指だと思います。イゾルデ役のソプラノ、クリスティーア・イーヴェンは、弱音での色合いから力強さまで幅広く備え、単に力で押し切らない繊細さを持ち合わせています。かつてカルロス・クライバーが指揮した録音で、この役を歌ったマーガレット・プライスと比較できるような歌手です」

新旧の要素が 織りなす影響力

——作品として注目すべきは、どのようなところでしょうか。

「伝統的なロマン派オペラの要素と、新しい要素が共存している点でしょう。よく言われるのが新しいハーモニ

ー、いわゆるトリスタン和音の登場ですが、違うところにも注目したい。それがオーケストレーション（管弦楽法）です。楽器の用法や、どういう音が与えられているか、などです。例えば楽器の使い方では、第3幕に出て来るイングリッシュ・ホルンのソロは画期的でした。ここまで一人

の人物のように扱われて、オペラに登場した例はありませんでした」

——後世に与えた影響も甚大ですね。

「20世紀に至るまで多くの影響を残しましたが、さまざまな観点から捉える必要があります。ドビュッシーも西洋音楽史の革命児でしたが、ワーグナーとこの作品がなかったら、あのドビュッシーにはならなかった。リヒャルト・シュトラウスはたくさんのものを受け継ぎましたが、すべてを継承したわけではない。〈ラインの黄金〉が主なお手本でした。ストラヴィンスキーは完全に無視しました。もちろんワーグナー自身も、先人からの影響を受けています。音楽の創造とは常に、前からある素材を使って新しいものを編み出す営みなのです」

——ワーグナー自身、この作品の後では進化が見られます。

「〈トリスタンとイゾルデ〉以降のワーグナーは、もっと自分自身の音楽言

語を磨きました。〈神々のたそがれ〉や〈パルジファル〉は、これ以上ないところまで完成されています。〈トリスタンとイゾルデ〉で問題があるとなれば、音量の大きさ（デュナーミク）に修正が必要な点です。管弦楽が大きすぎて、歌手の声をかき消してしまう箇所がある。特に金管楽器が全開となる場面では、歌い手は太刀打ちできません。歌詞が聞き取れるかどうかは、本質的に大切な問題です。トロンボーンだけ音量を落とすとか、小節の中でアクセントを変えるなど、作品の本質に沿って細かく修正します」

音楽の流れを 常に意識したテンポで

——実際の演奏では、テンポの設定も重要な要素ですね。

「やはりワーグナーの指示通りでは速すぎて歌詞が聞き取れなかったり、奏者が弾きにくかったりする部分があ



©Peter Adamik

ります。音の数は変えませんが、テンポは柔軟に変えていきます。〈神々のたそがれ〉や〈パルジファル〉では、こうし

た必要がなく、ワーグナーの指示通りでいいと思います」

「そもそも〈トリスタンとイゾルデ〉では、テンポに関するメトロノーム的な数字での指示はありません。すべて決めるのは指揮者です。大切なのは『常に流れていること』で、聴き手に音楽の流れがずっと続いている感覚を与えることなのです。指揮者は一定のテンポ観を持って全体を決断せねばなりません」

——マエストロは、どんな点を重視しますか。

「決して立ち止まらず、大きな流れを決めたうえで、各部のテンポを考えます。全体を通して弧を描く流れがあること、急ぎ過ぎないが流れを止めないこと、が大切です。もちろん歌手が歌いにくくなるほど速く走ってはいけませんが、ワーグナーは極端にゆっくりなテンポも指示していない。4月に読響と演奏したブルックナーの交響曲第7番でもそうでしたが、私は決してテンポを急いでいるわけではなく、私にとっての音楽の流れがそうさせるだけなのです」

——〈トリスタンとイゾルデ〉への深い洞察と理解に裏打ちされた公演を、楽しみにしています。

※下回（『月刊オーケストラ』9月号）では、カンブルランが作品の聴きどころなどを説き明かします。

◎ソロ・チェロ奏者

毛利伯郎

Hakuro Mori

きょうも新たな気持ちで
特別、美しい音を

《7月25日、横浜みなとみらいホールでの名曲シリーズで、読売日本交響楽団を卒業する。35歳で読響に入団し、30年もの間、チェロ・セクションを率いてきた》

読響に入る前は、ニューヨークのジュリアード音楽院で学び、米国で室内楽やリサイタルの活動をしていました。13年間の米国滞在中、数多くの演奏家と共演し帰国、数年間は読響でがんばってみようというくらいのつもりで入団しました。あっという間にオーケストラ生活30年ですね。自分でも驚いています。ベートーヴェンやモーツァルトなど名曲の数々を演奏してきましたが、毎回新しい気持ちで、次の演奏が今までで一番良くなるようにと心掛けています。慣れているから簡単に弾けると思うと、つまらない演奏になってしまう。読響での年月が経つにつれて、オーケストラの曲を練習する時間が増えてきました。

《読響はこの30年で、その演奏能力

が格段に向上したと言われますが》

その時代時代で最高の演奏を目指してきたのですが、やはり、オーケストラとして成長したのは事実ですね。最近、練習の初日から各セクションともピタッときれいな音が出るが多い。飛び出したり、変な音を出したりしてはいけないと神経を使うというか、いい意味で弾くことに「怖さ」が出てきました。今や読響の演奏能力は、世界の一流のオーケストラと比べてもそんなに変わらないレベルだと思いますよ。凄いオーケストラです。

僕は海外公演には今年3月の欧州公演を含めて計3回参加しました。一緒に旅行すると団員同士の結束力が高まり、伝統を積み重ねるのにも役立ちますね。読響は、人間関係が良くてアットホームで、しかも派閥がない。今の若い楽員の皆さんには、そんな雰囲気も大切にしてほしいと思います。

《数多くの指揮者と出会いましたね。思い出深いのは？》

読響の団員として最後の曲となる7月の〈惑星〉は、かつてロリン・マゼールの指揮でやったことがあるんですよ。素晴らしい指揮者とたくさん出会いました。スタニスラフ・スクロヴァチェフスキ、クルト・ザンデルリンク



本番前に、音合わせする毛利さん（左）。オランダ・ユトレヒトのティヴォリ・フレーデンブルフ大ホールで

……もう指揮台に立っているだけでカリスマ性を感じてしまいます。

僕はジュリアードでカラヤンのマスタークラスを受けたことがあります。学生の指揮者で練習している時に、カラヤンがドアを開けて入ってきた。そしたら、それだけでオーケストラがすごくいい音を出したのにはびっくりしました。振っているのは学生ですよ。巨匠と呼ばれる指揮者はそういうカリスマ性を持っている。

そうそう、ゲルト・アルブレヒトが「美しく弾くだけじゃだめ、特別美しく弾きなさい」と語ったのを覚えています。普通にきれいじゃだめなんだ、飛びぬけて恐ろしいほど美しく、と。僕は演奏することによって人の気持ちを動かすことが仕事じゃないですか。普通に弾いていては、それは難しい。やはり、特別美しくなくては。

《毛利さんは高崎市出身。父親は医師でアマチュアのチェリストだった。その影響もあって10歳からチェロを学んだ。今、毛利さんはチェロの若手の教育にも情熱を傾けている。すでに多くの弟子たちがプロの演奏家として巣立っていった》

僕の弟子と呼べるのは、ちょうど150人ぐらいです。僕らが小さいころ、子供用のチェロは四分の三というサイズで、小学校の高学年から始めるのがようやくでした。でも、十分の一というサイズも出てきて4、5歳から始められるようになりました。

たまたま小さい子供たちが今、僕のところに集まってきています。その子供たちが大学を卒業するころには僕も80歳ぐらいになる。将来は読響で演奏するようなチェリストをたくさん育てていきたいですね。

ボストン響などで活躍する気鋭が振る《三大交響曲》

8/16 (日) 14:00 第3回 東京オペラシティ名曲シリーズ
東京オペラシティ コンサートホール

8/17 (月) 18:30 読響サマーフェスティバル2015《三大交響曲》
東京芸術劇場

8/18 (火)にパルテノン多摩でも同公演を行います。詳細は32ページをご覧ください。

シューベルト：交響曲 第7番〈未完成〉

ベートーヴェン：交響曲 第5番〈運命〉

ドヴォルザーク：交響曲 第9番〈新世界から〉

指揮：ケン＝デイヴィッド・マズア



©Beth Ross-Buckley
ケン＝デイヴィッド・マズア

若手人気ソリスト3人が、《三大協奏曲》で競演

8/21 (金) 18:30 読響サマーフェスティバル2015《三大協奏曲》
東京芸術劇場

メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲

ドヴォルザーク：チェロ協奏曲

チャイコフスキー：ピアノ協奏曲 第1番

指揮：下野竜也

ヴァイオリン：服部百音 チェロ：アンドレアス・ブランテリド

ピアノ：HJリム



下野竜也

首席客演指揮者・下野が振る得意のドヴォルザーク

8/23 (日) 14:00 第179回 東京芸術劇場マチネーシリーズ
東京芸術劇場

ドヴォルザーク：チェロ協奏曲、交響曲 第8番

指揮：下野竜也

チェロ：アンドレアス・ブランテリド



©読響
下野竜也

古典派に精通した名匠・鈴木秀美が、待望の初登場

8/27 (木) 20:00 第11回 読響カレッジ 文京シビックホール
※19:30から解説

ベートーヴェン：交響曲 第3番〈英雄〉

指揮：鈴木秀美

ナビゲーター：七尾藍佳 ※今回のみ、都合によりナビゲーターが変更となりました。



©K.Miura
鈴木秀美

8月 公演の聴きどころ

8月は、毎年チケットが完売する人気企画のサマーフェスティバル《三大交響曲》と《三大協奏曲》を開催する。16日と17日の《三大交響曲》では、期待の新鋭指揮者ケン＝デイヴィッド・マズアが初登場し、〈未完成〉〈運命〉〈新世界から〉の3曲を一挙に演奏する。当団名誉指揮者クルト・マズアを父に持つ新顔として注目を浴びており、すでにボストン響やドレスデン・フィルと共演を果たした。欧米で躍進する才能のフレッシュな棒さばきに、期待がかかる。

21日の《三大協奏曲》には、話題を呼ぶ3人のソリストが登場。1999年生まれの新進ヴァイオリニスト服部百音は、テレビで取り上げられるなど、急速に知名度があがっている。4月にイタリアでアシュケナーズ指揮のEUユース管と協演するなど、海外での活躍も華々しい。旧EMIレーベルからCDをリリースしている新星チェリストのブランテリドは、今年3月にロンドン響にデビューして絶賛され、待望の初来日となる。ピアノのHJリムは、YouTubeで超個性的な演奏を発信し一躍話題となった“カリスマ”ピアニスト。独創的な音楽作りで熱狂的なファンも多い。下野竜也^{はつらつ}の鋭刺とした指揮の下、3人の若さあふれる熱い演奏にご注目を。

23日は、下野竜也によるドヴォルザーク・プログラム。前半は、俊英ブランテリドが傑作・チェロ協奏曲で妙技を披露する。ストラディヴァリウスの深い音色を存分に活かした、艶やかな演奏が期待される。メインは、民俗色豊かな旋律が魅力の交響曲第8番。邦人指揮者として初めてドヴォルザークの交響曲全曲演奏を、同一オーケストラで成し遂げた名匠・下野が、得意曲で本領を発揮する。

27日は、遅めの20時開演が好評の《読響カレッジ》公演。高名なバロック・チェロ奏者で、指揮者としては古楽器による「オーケストラ・リベラ・クラシカ」を主宰する鈴木秀美が読響に初登場。ベートーヴェンの傑作〈英雄〉を指揮し、読響との新たなコラボレーションに踏み出す。開演前には、鈴木が作品の聴きどころを解説する。

(文責：事務局)

読響チケットWEB

検索

ワーグナーの大作に初演150周年を記念して挑戦

9/6 (日) 15:00 第551回 定期演奏会
サントリーホール

完売

9/13 (日) 15:00 第585回 サントリーホール名曲シリーズ
サントリーホール

完売

ワーグナー：楽劇〈トリスタンとイゾルデ〉(全3幕／演奏会形式・字幕付き)

指揮：シルヴァン・カンブルラン

独唱：エリン・ケイヴス(トリスタン)、クリスティアーネ・イーヴェン(イゾルデ)、アッティラ・ユン(マルケ)、クラウディア・マーンケ(ブランゲーネ)、石野繁生(クルヴェナル)、アンドレ・モルシュ(メロート)、与儀 巧(牧童、舵手、若い水夫)

男声合唱：新国立劇場合唱団



シルヴァン・カンブルラン

カンブルランとジャズの鬼才・小曾根真が注目の初共演！

9/11 (金) 19:00 第18回 読響メトロポリタン・シリーズ
東京芸術劇場

ムソルグスキー：交響詩〈はげ山の一夜〉(原典版)

ラフマニノフ：パガニーニの主題による狂詩曲

ムソルグスキー(ラヴェル編)：組曲〈展覧会の絵〉

指揮：シルヴァン・カンブルラン ピアノ：小曾根 真



小曾根 真

501席の小さなホールで贅沢に楽しむ《ハイドンの名曲選》

9/16 (水) 19:30 第7回 読響アンサンブル・シリーズ
よみうり大手町ホール ※19:00から解説

《下野竜也のハイドン》

ハイドン：王立音楽家協会のための行進曲、チェロ協奏曲 第1番
交響曲 第101番〈時計〉

指揮：下野竜也 チェロ：上村文乃 ※当初出演を予定していた遠藤真理は、出演できなくなりました。



下野竜也

名匠・尾高が練達のタクトを振り、国際派・諏訪内が共演

9/20 (日) 14:00 第180回 東京芸術劇場マチネーシリーズ
東京芸術劇場

9/21 (月) 14:00 第82回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール



尾高忠明

リャードフ：魔法にかけられた湖

モーツァルト：ヴァイオリン協奏曲 第5番〈トルコ風〉

チャイコフスキー：交響曲 第4番

指揮：尾高忠明 ヴァイオリン：諏訪内晶子

俊英・下野のダイナミックな〈巨人〉、名手モワネとの共演も

10/2 (金) 19:00 第4回 東京オペラシティ名曲シリーズ
東京オペラシティ コンサートホール

10/3 (土) 14:00 第83回 みなとみらいホリデー名曲シリーズ
横浜みなとみらいホール



セリーヌ・モワネ

モーツァルト：オーボエ協奏曲

マーラー：交響曲 第1番〈巨人〉

指揮：下野竜也

オーボエ：セリーヌ・モワネ

現代音楽の大家アダムズの傑作〈ハルモニレーレ〉を披露

10/13 (火) 19:00 第552回 定期演奏会
サントリーホール

ベートーヴェン：序曲〈コリオラン〉

ヒンデミット：〈白鳥を焼く男〉(ヴィオラと管弦楽)

ジョン・アダムズ：ハルモニレーレ (和声学)

指揮：下野竜也

ヴィオラ：鈴木康浩(読響ソロ・ヴィオラ)



下野竜也



こんなに便利！ 読響チケットWEB

読響チケットWEBは、インターネットから読響のチケットをお求めいただける専用ウェブサイトです。24時間いつでもお申し込みができ、ご自身でお好みの座席をお選びいただけます。

以下のURLもしくは公式ウェブサイトのトップページ【読響チケットWEB】のボタンから、ぜひご利用ください。

読響チケットWEB <http://yomikyo.pia.jp/>

※初回お申し込み時は利用登録(無料)が必要です。

お申し込み・
お問い合わせ

読響チケットセンター 0570-00-4390

(10:00~18:00/年中無休)

ホームページアドレス <http://yomikyo.or.jp/>

読響×夏のベートーヴェン! ～二大傑作〈皇帝〉&〈運命〉～

■7/4 (土) 15:00 かつしかシンフォニーヒルズ モーツァルトホール

指揮：園田隆一郎 ピアノ：アンティ・シーララ

メンデルスゾーン／付随音楽〈真夏の夜の夢〉序曲

ベートーヴェン／ピアノ協奏曲 第5番〈皇帝〉、交響曲 第5番〈運命〉

[料金] S ¥6,500 A ¥6,000 バルコニー ¥5,500 学生 ¥3,000

[お問い合わせ] かつしかシンフォニーヒルズ 03-5670-2233

リンツ州立劇場との共同制作公演 東京二期会オペラ劇場〈魔笛〉

■7/16 (木) 18:30、18 (土)～20 (月・祝) 14:00 東京文化会館

指揮：デニス・ラッセル・デイヴィス 演出：宮本亜門

出演：妻屋秀和、鈴木准、森谷真理、幸田浩子 ほか (16日・19日)

大塚博章、金山京介、高橋維、嘉目真木子 ほか (18日・20日)

合唱：二期会合唱団

モーツァルト／歌劇〈魔笛〉全2幕(日本語字幕付き原語上演)

[料金] S ¥13,500 A ¥12,500 B ¥10,000 C ¥8,000 D ¥6,000 学生 ¥2,000

[お問い合わせ] 二期会チケットセンター 03-3796-1831

フェスタサマーミュージザ KAWASAKI 2015

■7/30 (木) 15:00 ミューザ川崎シンフォニーホール

指揮：ジェレミー・ローレル ヴァイオリン：ヴェロニカ・エーベルレ

《オール・メンデルスゾーン・プログラム》

付随音楽〈真夏の夜の夢〉序曲、ヴァイオリン協奏曲、交響曲第4番〈イタリア〉

[料金] S ¥4,000 A ¥3,000 B ¥2,000

[お問い合わせ] ミューザ川崎シンフォニーホール 044-520-0200

読響 夏の《三大交響曲》

■8/18 (火) 15:00 パルテノン多摩大ホール

指揮：ケン＝デイヴィッド・マズア

シューベルト／交響曲第7番〈未完成〉

ベートーヴェン／交響曲第5番〈運命〉

ドヴォルザーク／交響曲 第9番〈新世界から〉

[料金] S ¥7,000 A ¥6,000 学生 ¥2,000

[お問い合わせ] チケットパルテノン 042-376-8181